

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和2年2月19日 午前用

第71回獣医師国家試験 実地試験問題 (C)

注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

問1 犬、トイ・プードル、避妊雌、3歳齢。活動性の低下および食欲不振を主訴に来院。〔図1 - A〕は血液検査結果、〔図1 - B〕は末梢血塗抹標本像（メイ・ギムザ染色、×400）、〔図1 - C〕は血液をEDTA処理後、生理食塩水を用いて2倍希釈したものの顕微鏡像（×100）である。最も疑われる疾患に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 血管内と血管外の両方で赤血球の破壊が生じる。
2. 原発性疾患の場合には免疫抑制薬による治療が第一選択となる。
3. 播種性血管内凝固や血栓症を併発することがある。
4. 非再生性貧血である。
5. バベシア症、ヘモプラズマ症で二次的に生じることがある。

別冊 C
図 1 - A, B, C

問2 〔図2〕は2016年における5種類の病因物質による食中毒の原因食品別発生件数である。正しい組合せはどれか。

1. A：腸炎ビブリオ
2. B：アニサキス
3. C：クドア
4. D：カンピロバクター
5. E：ブドウ球菌

別冊 C
図 2

問3 〔図3 - A〕は犬の体幹部に認められた病変、〔図3 - B〕は病変部辺縁の被毛をサブロー寒天培地で培養した時の顕微鏡像（コットンブルー染色）である。この病原体はどれか。

1. *Trichophyton mentagrophytes*
2. *Microsporum canis*
3. *Malassezia pachydermatis*
4. *Candida albicans*
5. *Cryptococcus neoformans*

別冊 C
図 3 - A, B

問4 犬、ミニチュア・ダックスフンド、避妊雌、2歳齢。左眼の腫瘤を主訴に来院。〔図4〕は罹患眼の外貌である。最も疑われる疾患に対する予後をふまえた治療法として最も適切なのはどれか。

1. 抗菌薬の長期点眼
2. 抗癌剤の多剤併用療法
3. 腫瘤の切除
4. 腫瘤を第三眼瞼内に埋没させて縫合
5. 第三眼瞼の全切除

別冊 C
図 4

問 5 牛、ホルスタイン種、雌、21 日齢。下腹部の腫瘤を主訴として診察した。〔図 5〕は腫瘤部の外貌である。食欲および活力は正常であり、排尿および排便は正常であった。触診では腫瘤は柔らかく、腹腔内へ還納された。また、血液検査でも異常値は認められなかった。最も疑われる疾患はどれか。

1. 臍炎
2. 尿膜管遺残
3. 臍帯膿瘍
4. 鼠径ヘルニア
5. 臍ヘルニア

別冊 C

図 5

問 6 猫、雑種、避妊雌、12 歳齢。〔図 6 - A〕は肝臓病変の肉眼像、〔図 6 - B〕は病理組織像（HE 染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. カルチノイド
2. 猫伝染性腹膜炎
3. 肝細胞癌
4. 胆管癌
5. 肝芽腫

別冊 C

図 6 - A, B

問7 犬、グレート・ピレニーズ、雄、4か月齢。1か月前から繰り返す四肢の跛行を主訴に来院。〔図7-A〕は左前肢のX線側方像、〔図7-B〕は左後肢のX線側方像である。3か月後の再検査時にはこの異常はほぼ消失していた。この画像所見から最も疑われる疾患はどれか。

1. 肥大型骨異栄養症
2. 汎骨炎
3. 成長板早期閉鎖
4. 軟骨芯遺残
5. 骨髄炎

別冊 C
図7-A, B

問8 〔図8〕は平成30年度における畜産に起因する苦情発生件数のグラフである。Aの苦情はどれか。

1. 悪臭関連
2. 水質汚濁関連
3. 騒音関連
4. 害虫関連
5. 糞尿の流出関連

別冊 C
図8

問9 下痢を呈する屋外飼育の犬の糞便を鏡検したところ〔図9 - A〕の幼虫が得られた。糞便を培養したところ〔図9 - B〕が得られた。〔図9 - C〕はその尾端部拡大像である。本疾患への対応として適切でないのはどれか。

1. 多頭飼育下による集団感染を避ける。
2. イベルメクチンで治療する。
3. 自家感染に注意する。
4. ヒトへの感染に注意する。
5. 胎盤感染に注意する。

別冊 C
図 9 - A, B, C

問10 猫、雑種、去勢雄、10歳齢。3か月前からの間欠的な嘔吐を主訴に来院。〔図10 - A〕は脾臓の超音波検査像、〔図10 - B〕は脾臓の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×400）である。本症例で第一選択となる治療法はどれか。

1. テトラサイクリン系抗菌薬の投与
2. 免疫抑制薬の投与
3. 多剤併用化学療法
4. 放射線療法
5. 脾臓摘出術

別冊 C
図 10 - A, B

問11 犬、雑種、雄、7か月齢。発熱、食欲不振、活動性低下を主訴に来院した。〔図11〕は回復期に認められた眼病変である。本疾患の原因ウイルスと同じウイルス科に属するウイルスが引き起こす疾患はどれか。

1. 鶏の産卵低下症候群
2. 兎ウイルス性出血病
3. ブリのウイルス性腹水症
4. ミンクアリューシャン病
5. みつばちのサックブルード病

別冊 C
図 11

問12 猫、雑種、去勢雄、8歳齢。嘔吐、食欲低下を主訴に来院。1か月で体重は7.5 kg から 5.5 kg へ減少していた。腹部 X 線検査では肝腫大が認められ、腹部超音波検査では肝臓実質のエコー源性の上昇が認められた。〔図12 - A〕は耳介内側の外貌、〔図12 - B〕は血液検査結果である。本症例に対する対応として適切なのはどれか。

1. 血液凝固系検査を行う。
2. 臨床徴候の改善が認められるまで絶食とする。
3. タンパク制限食を与える。
4. グルココルチコイドを投与する。
5. テトラサイクリンを投与する。

別冊 C
図 12 - A, B

問13 牛、ホルスタイン種、雌、9歳齢。発情持続後に無発情になったとの主訴で診察した。直腸検査により右側には正常な卵巣は認められず腫瘤が触知され、左側には正常な卵巣が認められた。〔図13 - A〕は臍部切開により摘出した腫瘤の外観で、〔図13 - B〕はその断面を示している。最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵胞嚢腫
2. 黄体嚢腫
3. 顆粒膜細胞腫
4. 多胞性大型嚢腫
5. 嚢腫様黄体

別冊 C
図 13 - A, B

問14 〔図14〕はセフィキシム・亜テルル酸添加ソルビトールマッコンキー（CT-SMAC）寒天培地での発育コロニー（左）およびTSI寒天培地での色調変化（右）を示している。典型的な腸管出血性大腸菌 O157 が示す結果はどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

別冊 C
図 14

問15 犬、マルチーズ、避妊雌、4歳齢。両耳より茶色の耳漏が認められるとの主訴で来院。〔図15〕は耳漏の直接塗抹像（ライト・ギムザ染色、×1,000）である。この病原体に対する治療薬として適切なのはどれか。

- a テルビナフィン
- b アミトラズ
- c セファレキシン
- d クリンダマイシン
- e ケトコナゾール

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 15

問16 実験動物施設で飼育していた複数のマウスが、元気消失、消瘦、立毛等の臨床徴候を呈して死亡した。剖検を行うと、〔図16 - A〕の病変が認められたため、病巣部からサンプルを採取して血液寒天培地で培養したところ、〔図16 - B〕に示すコロニーが観察された。またコロニーのグラム染色では〔図16 - C〕に示す病原体が検出された。最も疑われる疾患はどれか。

- 1. ティザー病
- 2. ブドウ球菌病
- 3. パスツレラ症
- 4. ネズミコリネ菌病
- 5. 緑膿菌病

別冊 C
図 16 - A, B, C

問17 離乳直後に〔図17〕のような外貌を呈して元気消失した子豚が散見された。
最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚丹毒
2. 豚レンサ球菌症
3. 蕁麻疹
4. 大腸菌症
5. 滲出性表皮炎

別冊 C
図 17

問18 〔図18〕は食品のリスク分析に関わる我が国の行政機関の関連性を示している。
(ア) から (オ) に当てはまる機関として正しいのはどれか。

1. (ア)：消費者庁
2. (イ)：食品安全委員会
3. (ウ)：厚生労働省
4. (エ)：農林水産省
5. (オ)：環境省

別冊 C
図 18

問19 離乳豚、交雑種、45日齢。群内で呼吸器疾患と発育停滞が長期に発生しているため、その1頭を鑑定殺したところ、肺に〔図19〕のような病理組織像（HE染色）がみられた。最も疑われる疾患はどれか。

1. 豚のパスツレラ肺炎
2. トキソプラズマ症
3. 豚繁殖・呼吸障害症候群
4. ニューモシスティス肺炎
5. 豚マイコプラズマ肺炎（豚流行性肺炎）

別冊 C

図 19

問20 犬、雑種、去勢雄、9歳齢。頸部にしこりがあるとの主訴で来院。〔図20 - A〕は頸部を中心とした造影CT検査矢状断像、〔図20 - B〕はAの矢印部分の造影横断像、〔図20 - C〕は細針吸引細胞診像（ギムザ染色、×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 高悪性度リンパ腫
2. 低悪性度リンパ腫
3. 肥満細胞腫
4. 甲状腺癌
5. 中皮腫

別冊 C

図 20 - A, B, C

問21 〔図 21〕は牛の流産胎子から分離したウイルスの模式図である。この疾患はどれか。

- a イバラキ病
- b アイノウイルス感染症
- c アカバネ病
- d 牛ウイルス性下痢
- e 牛伝染性鼻気管炎

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 21

問22 猫、雑種、避妊雌、10 歳齢。毎年背部にワクチン接種を受けている。1 か月前に背部に腫瘍を見つけ、次第に大きくなっていると主訴で来院。肩甲骨間に 6 cm 大の腫瘍を触知した。〔図 22〕はツルーカット生検の病理組織像（HE 染色、× 400）である。最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 扁平上皮癌
- 2. 化膿性肉芽腫性炎
- 3. 線維肉腫
- 4. アポクリン腺癌
- 5. リンパ腫

別冊 C
図 22

問23 〔図 23〕は北米大陸に広く分布する動物である。この動物が媒介する人獣共通感染症はどれか。

1. ウエストナイル熱
2. ラッサ熱
3. 腎症候性出血熱
4. Bウイルス感染症
5. ハンタウイルス肺症候群

別冊 C
図 23

問24 猫、雑種、去勢雄、12歳齢。以前から糖尿病と診断し、インスリン療法を実施していた。昨日より食欲が廃絶し、意識レベルも低下してきたとのことで来院。〔図 24〕は血液ガス分析結果である。血液の酸塩基平衡の状態として適切なものはどれか。

1. 正常
2. 代謝性アシドーシス
3. 代謝性アルカローシス
4. 呼吸性アシドーシス
5. 呼吸性アルカローシス

別冊 C
図 24

問25 犬、ボクサー、去勢雄、6歳齢。てんかん様発作の病歴を持ち、けいれん発作を示した後に死亡した。〔図25 - A〕は症例の右大脳半球に形成された病変のHE染色低倍像、〔図25 - B〕はその拡大像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. クリプトコックス症
2. 犬の肉芽腫性髄膜脳炎
3. 希突起膠細胞腫
4. 星状膠細胞腫
5. 髄膜腫

別冊 C
図 25 - A, B

問26 牛、黒毛和種、雌、6歳齢。人工授精後53日目に妊娠を確認した。〔図26〕はその2か月後に外陰部から排出されたものである。これは何か。

1. 胎子ミイラ変性
2. 胎子浸漬
3. 反転性裂体
4. 水腫胎
5. 気腫胎

別冊 C
図 26

問27 牛、ホルスタイン種、3歳齢、雌。2か月前から皮膚に痒みを伴わない結節病変があり、1週間前から食欲低下、呼吸促迫を認めるとの主訴で診察した。体温38.9℃、心拍数72回/分、呼吸数60回/分で、体表リンパ節の腫大が認められた。〔図27-A〕は頸部の皮膚病変、〔図27-B〕は頸部体表結節の生検スタンプレ像（ギムザ染色、×1,000）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 蕁麻疹
2. 扁平上皮癌
3. 疥癬
4. 乳頭腫
5. 皮膚型牛白血病

別冊 C
図 27 - A, B

問28 猫、雑種、去勢雄、13歳齢。間欠的な嘔吐を主訴に来院。〔図28-A〕は胸部X線側方像、〔図28-B〕は腹背像、〔図28-C〕は造影側方像である。嘔吐の原因として最も疑われる疾患はどれか。

1. 食道内異物
2. 裂孔ヘルニア
3. 巨大食道症
4. 噴門狭窄
5. 血管輪異常

別冊 C
図 28 - A, B, C

問29 犬、チワワ、去勢雄、6歳齢。しきりに頸部を搔くとの主訴で来院。身体検査で頸部の知覚過敏および側弯、両前肢の固有位置反応の低下が認められた。〔図29 - A〕は頸部MRI検査T₂強調矢状断像、〔図29 - B〕はFLAIR矢状断像、〔図29 - C〕はFLAIR横断像、〔図29 - D〕は造影T₁矢状断像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 線維軟骨塞栓症
2. 脊髓腫瘍
3. 肉芽腫性髄膜脳脊髄炎
4. 環椎軸椎不安定症
5. 脊髓空洞症

別冊 C
図 29 - A, B, C, D

問30 ある家きん農場で日齢を問わず著明な呼吸器症状と緑色下痢便を主徴とする感染症が発生し、急性経過により大量に死亡した。〔図30 - A, B〕はそれぞれ筋胃および十二指腸における病変である。発育鶏卵を用いて病原診断がなされた。この疾患はどれか。

1. 家きんコレラ
2. マレック病
3. ニューカッスル病
4. 鶏のサルモネラ症
5. 封入体肝炎

別冊 C
図 30 - A, B

問31 〔図 31〕は2018年5月～11月においてと畜場に搬入された豚の調査から得られたある人獣共通感染症の都道府県別抗体保有率である。この疾患あるいはその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1. 土壌細菌である。
2. 豚では菱形の紅色発疹が特徴的な症状である。
3. 猫科の動物が終宿主である。
4. 極東、東南アジア、南アジア、オセアニアの一部で流行している。
5. ヒトの重症例では黄疸がみられる。

別冊 C

図 31

問32 犬、柴犬、避妊雌、8歳齢。散歩中に突然倒れ虚脱状態で来院。呼吸促迫で脈は弱く、心音の聴取は困難であった。〔図 32〕は心エコー図検査像（右傍胸骨短軸断面乳頭筋レベルの拡張早期）である。最初に行うべき処置として最も適切なのはどれか。

1. 利尿薬の投与
2. 血管拡張薬の投与
3. 強心薬の投与
4. 心嚢穿刺
5. 抗凝固薬の投与

別冊 C

図 32

問33 ラットの内耳に見られる〔図 33〕の組織構造はどれか。

1. 膨大部稜
2. ラセン神経節
3. 平衡斑
4. ラセン器（コルチ器）
5. 血管条

別冊 C
図 33

問34 〔図 34〕は家畜における飼料エネルギーの動態を示したものである。A から C の組合せとして正しいのはどれか。

- | A | B | C |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 代謝エネルギー | —— 正味エネルギー | —— 可消化エネルギー |
| 2. 可消化エネルギー | —— 正味エネルギー | —— 代謝エネルギー |
| 3. 正味エネルギー | —— 可消化エネルギー | —— 代謝エネルギー |
| 4. 可消化エネルギー | —— 代謝エネルギー | —— 正味エネルギー |
| 5. 代謝エネルギー | —— 可消化エネルギー | —— 正味エネルギー |

別冊 C
図 34

問35 犬、シーズー、雄、7か月齢。高所から落下後、右後肢を挙上しているとの主訴で来院。〔図 35 - A〕は右後肢の X 線側方像、〔図 35 - B〕は頭尾像である。この骨折に対する内固定法として最も適切なのはどれか。

1. 骨片間ワイヤー法
2. ラグスクリュー法
3. テンションバンドワイヤー法
4. クロスピン法
5. サークラージワイヤー法

別冊 C
図 35 - A, B

問36 犬、ラブラドル・レトリバー、去勢雄、6歳齢。数日前から耳をしきりにかいていたが、昨日から右耳介が急に腫れてきたとの主訴で来院。病巣は波動感があり、穿刺すると〔図 36 - A〕に示す液体が吸引され、耳介の腫脹は消失した。〔図 36 - B〕は右耳介の外貌である。この病態の原因となる最も一般的な疾患はどれか。

1. 免疫介在性血小板減少症
2. 血友病
3. 外耳炎
4. 肥満細胞腫
5. 副腎皮質機能亢進症

別冊 C
図 36 - A, B

問37 牛、ホルスタイン種、雌、2歳齢。人工授精師から「膣の様子がおかしい」との連絡を受けて診察を行った。〔図 37〕は膣検査時に認められた内観である。最も疑われる疾患、病態はどれか。

1. 子宮内膜炎
2. フリーマーチン
3. 尿膣
4. ホワイトハイファー病
5. 重複外子宮口

別冊 C
図 37

問38 〔図 38〕は白色斑がみられた鶏の腎臓の HE 染色像である。この病変に関する記述として正しい組合せはどれか。

- a 鶏伝染性気管支炎ウイルス感染で形成されることがある。
- b 牛や羊ではシュウ酸の過剰摂取によって生じる。
- c 他臓器に転移することがある。
- d ビタミン D 過剰症が原因である。
- e 核酸塩基（プリン体）由来の沈着物である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 38

問39 牛、ホルスタイン種、雌、8歳齢。慢性下痢、消瘦および泌乳量減少を主訴に診療依頼があった。〔図 39〕は排便の様子である。考慮すべき疾患として適切なものはどれか。

- a 出血性腸症候群
- b ヨーネ病
- c アミロイドーシス
- d コクシジウム症
- e 脂肪壊死症

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 39

問40 〔図 40〕は馬の日本脳炎や東部馬脳炎に見られる大脳の病理組織像（HE 染色）である。この変化を何というか。

- 1. グリア結節
- 2. 神経食現象
- 3. 囲管性細胞浸潤
- 4. 好酸性封入体
- 5. 中心性色質融解

別冊 C
図 40

問41 〔図 41〕は牛の乳房炎乳から分離された微生物のグラム染色像である。最も疑われる原因微生物はどれか。

1. *Staphylococcus aureus*
2. *Streptococcus uberis*
3. *Escherichia coli*
4. Yeast - like fungi
5. *Prothoteca* sp.

別冊 C

図 41

問42 犬、シベリアン・ハスキー、去勢雄、9歳齢。2週間前、散歩中に左後肢を急に挙上し、その後鎮痛剤を投与したがあまり改善しないとの主訴で来院。〔図 42 - A〕は左後肢の X 線側方像、〔図 42 - B〕は頭尾像、〔図 42 - C〕は脛骨を頭側に牽引して撮影した X 線側方像である。この疾患に随伴して損傷が最も生じやすい部位はどれか。

1. 後十字靭帯
2. 膝蓋靭帯
3. 側副靭帯
4. 内側半月後角
5. 外側半月前角

別冊 C

図 42 - A, B, C

問43 犬、マルチーズ、雄、8歳齢。多飲多尿を主訴に来院。〔図43 - A〕は血液検査結果であり、〔図43 - B, C〕は左右副腎の超音波検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 原発性アルドステロン症
2. 下垂体性副腎皮質機能亢進症
3. 副腎性副腎皮質機能亢進症
4. 褐色細胞腫
5. 副腎皮質機能低下症

別冊 C

図 43 - A, B, C

問44 猫、雑種、2か月齢。40℃の発熱、元気消失、食欲廃絶、その数日後から下痢と嘔吐を呈し斃死した。〔図44〕は、斃死個体の小腸粘膜の顕微鏡像（HE染色）である。この疾患の原因ウイルスの亜種とされているのはどれか。

- a マウスノロウイルス
- b ミンク腸炎ウイルス
- c 犬パルボウイルス2型
- d ベネズエラ馬脳炎ウイルス
- e ナイロビ羊病ウイルス

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

別冊 C

図 44

問45 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、10か月齢。右前肢を挙上するようになったとの主訴で来院。右前腕部遠位の前屈および外旋が認められたためX線撮影を行った。〔図45 - A〕は側方像、〔図45 - B〕は頭尾像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 尺骨遠位成長板早期閉鎖
2. 橈骨遠位成長板早期閉鎖
3. 手根関節亜脱臼
4. 肘関節形成不全
5. 橈骨骨折の変形癒合

別冊 C
図 45 - A, B

問46 猫、日本猫、1歳齢。4か月齢時より四肢麻痺が進行し、視覚障害を呈して死亡した。〔図46 - A〕はこの猫の小脳と脳幹の冠状断面組織像（ルクソール・ファースト青・HE染色）、〔図46 - B, C〕は小脳白質の組織像（B：HE染色、C：PAS反応）である。最も疑われる疾患、病態はどれか。

1. グロボイド細胞性白質ジストロフィー
2. 鉛中毒
3. ラフォラ病
4. GM1 ガングリオシドーシス
5. セロイド・リポフスチン症

別冊 C
図 46 - A, B, C

問47 〔図 47〕は我が国で最も用いられているある水質検査の手順である。この手順によって測定される水質検査項目はどれか。

1. 亜硝酸イオン
2. 化学的酸素要求量
3. 残留塩素
4. 全有機炭素量
5. 溶存酸素

別冊 C
図 47

問48 馬、サラブレッド種、雄、4歳齢。競馬へ出走後、右後肢に跛行を認めた。〔図 48〕は飛節部 X 線背内側－底外側斜位像である。骨折部位はどれか。

1. 踵骨
2. 距骨
3. 中心足根骨
4. 第三足根骨
5. 第三中足骨

別冊 C
図 48

問49 〔図 49〕は DNA の配列変化を伴わずに伝達される遺伝子機能の変化（エピジェネティクス）の 1 つを模式化したものである。この現象を何というか。

1. DNA のメチル化・脱メチル化
2. ヒストンのアセチル化・脱アセチル化
3. X 染色体の活性化・不活性化
4. ゲノムインプリンティング
5. MHC の多型化

別冊 C

図 49

問50 牛、ホルスタイン種、雌、5 歳齢。〔図 50〕は分娩 24 時間後の外貌である。本症の発生と関連しないのはどれか。

1. ケトーシス
2. 分娩誘起処置
3. 長期在胎
4. 肥満牛症候群
5. ビタミン A 欠乏

別冊 C

図 50

問51 牛、ホルスタイン種、雌、7歳齢。分娩翌日に突然の起立不能と食欲廃絶を主訴に診察依頼があった。〔図 51〕は乳房の外貌である。体温 41.0℃、心拍数 92 回/分、意識はあるが結膜充血と著しい脱水が認められた。最も疑われる疾患はどれか。

1. 慢性乳房炎
2. 甚急性乳房炎
3. 潜在性乳房炎
4. 乾乳期乳房炎
5. 未経産乳房炎

別冊 C

図 51

問52 猫、雑種、避妊雌、12歳齢。食欲廃絶を主訴に来院。〔図 52〕は腫大した腸間膜リンパ節の細針吸引細胞診像（ライト・ギムザ染色、× 1,000）である。最も疑われる疾患に関する記述として適当なのはどれか。

1. 小細胞性リンパ腫に分類される。
2. B細胞由来と考えられている。
3. 消化管に好発する。
4. 猫免疫不全ウイルスの感染により発生する。
5. 化学療法への反応性が高く大部分の症例で寛解が得られる。

別冊 C

図 52

問53 〔図 53〕は IgG の基本構造を示している。正しい記述はどれか。

- a アは L 鎖である。
- b イはジスルフィド結合である。
- c ウはヒンジ領域と呼ばれている。
- d エは Fab と呼ばれている。
- e オは C 領域（定常領域）と呼ばれている。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 53

問54 犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、8 歳齢。最近元気がないとの主訴で来院。〔図 54 - A〕は胸部 X 線側方像、〔図 54 - B〕は腹背像である。画像所見として最も適当なのはどれか。

- 1. 左心房が拡大している。
- 2. 気管が背側へ挙上している。
- 3. 気胸が生じている。
- 4. 胸骨リンパ節が腫大している。
- 5. 肺動脈が著しく蛇行している。

別冊 C

図 54 - A, B

問55 猫、雑種、雌、2歳齢。糞便中に〔図55 - A〕に示す寄生虫虫体（全長約30 cm）を排出し、糞便検査で〔図55 - B〕に示す虫卵が検出された。この寄生虫症に関する記述として適切なのはどれか。

1. 経乳汁感染がみられる。
2. ビタミンB₁₂欠乏性貧血を起こすことがある。
3. 人体寄生例では移動性（遊走性）皮下腫瘍の形成が問題となる。
4. 駆虫にはメトロニダゾールを用いる。
5. ワクチンによる予防が有効である。

別冊 C
図 55 - A, B

問56 犬、シーリハム・テリア、去勢雄、4歳齢。突然の右眼の疼痛を主訴に来院。〔図56〕は来院時の右眼の外貌である。右眼の所見として適切なのはどれか。

1. 眼球が突出している。
2. 角膜潰瘍がみられる。
3. 虹彩に腫瘍がみられる。
4. 縮瞳している。
5. 水晶体が偏位している。

別冊 C
図 56

問57 〔図 57〕は食中毒の流行曲線で、横軸は喫食から発症までに要した期間、縦軸は患者数を示している。ヒト-ヒト感染がみられない集団食中毒が示す典型的な流行曲線はどれか。ただし、患者が原因食品を喫食した日を0日とする。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

別冊 C
図 57

問58 〔図 58〕は平成 28 年の家畜共済統計における肉用牛等の死産事故別頭数のうち消化器病の内訳を示している。A の疾患に関する記述として適当なのはどれか。

- a 秋に発生しやすい。
- b 濃厚飼料を十分に与えることで予防する。
- c マメ科牧草の多給により発生しやすい。
- d 育成期に重要視される疾患である。
- e カルシウムの投与によって治療する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C
図 58

問59 犬、フラット・コーテッド・レトリバー、雄、9歳齢。呼吸速迫を呈して死亡。解剖により胸水の高度な貯留がみられ、心底部に腫瘤が認められた。〔図59 - A〕は腫瘤とともに心臓を縦断した像であり、〔図59 - B〕は病変部の病理組織像（HE染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 大動脈小体腫瘍
2. 血管肉腫
3. 胸腺型リンパ腫
4. 心膜中皮腫
5. 横紋筋腫

別冊 C
図 59 - A, B

問60 ウサギ、雄、2歳齢。食欲不振を主訴に来院。〔図60 - A, B〕は吻部の外貌である。身体検査や血液検査、腹部 X 線検査では明らかな異常は確認されなかった。食欲不振の原因として最も疑われるのはどれか。

1. 口腔内腫瘍
2. 口腔内異物
3. 口唇部肉芽腫
4. 切歯の不正咬合
5. 臼歯の不正咬合

別冊 C
図 60 - A, B

